



成果指標				
成果指標	当該年度の果樹育成袋(園地面積)・栗剪定(園地面積)・苗木(植栽面積)・パーク堆肥(投入面積)の各実施面積の累計/当該年度の各実施計画面積の累計(目標数値)×100			
指標設定の考え方	各実施計画面積(目標数値)に対する各実施面積を測定することにより、優良品種の導入や生産体制整備等について効果を測る。			
区分年度	26年度	27年度	28年度	
目標	100%以上	100%以上	0	0
実績	0.942	1.21	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	特産果樹の育成や全国的にも有名な中山栗の品質向上のために、必要な事業であり、今後も継続が必要であるが、生産者の要望やニーズ等を勘案した検討が必要と思われる。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	3事業とも、要望は多いが常態化している。常に農業者のニーズを把握し、事業効果を検証しながら、必要に応じた事業項目や補助要件等の見直しを行う必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価  
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題